

CLOSE
UP!



「私も弁護士である前に1人の人間です。
依頼者様とは肩肘を張らずに、腹を割つ
て話し合っていけるような関係を築いて
いきたいですね」

対談記事▶▶ 022 p

リヴラ総合法律事務所

弁護士

大野 弘明

G u i d e l i n e s f o r b u s i n e s s

過去のキャリアを活かし、独立後は医療従事者に寄り添う弁護士として活動している「リヴラ総合法律事務所」の大野所長。被害者側、患者側に立つ弁護士と比べて絶対的に数が少ないだけに、今後の活躍に対する期待は否が応にも高まる。そんな所長の原点は、かつて国選弁護人として接した依頼者から送られた言葉と、一通の手紙にあるという。想いを抱き続けて十余年、大野所長はこれからも医療にまつわる諍いごとに悩む人々の力であり続ける。

弁護士
大野 弘明

中央大学法学部にて法律を学び、弁護士を志す。卒業後は司法試験予備校に勤めながら勉強を続ける。2002年、28歳の時に司法試験合格を果たし、数ヶ所の弁護士事務所、及び証券会社に勤めて経験を積む。後に既存の事務所を引き継ぐ形で独立、リヴラ総合法律事務所を開いた。



法律のスペシャリストとして 病院・医療関係者を支える弁護士

法律事務所にも専門性が求められる時代となった現代において、特に医療従事者に寄り添った仕事に特化しているリヴラ総合法律事務所。その事業モデルの根幹に秘められた、大野所長が抱く依頼者への想いについて、女優の大路恵美さんが伺った。

Guest Comment>>>

大路 恵美 (女優)

以前には依頼者から「弁護士っぽくないところが好き」と言われたという大野所長ですが、その意見には私も同意です。クシャッとした笑顔も印象的で、本当に何でも気兼ねなく相談できそうな印象を抱くことができました。今後、医療分野は成長産業と目されているとのこと、それだけに、大野所長の存在は重要になっていきそうですね！



専門性を考慮し、医療分野に特化

大路 新橋駅からほど近く、アクセスの良い事務所ですね。

大野 私がこの場所で開業できたのは、本当に偶然の産物なのです。独立を考えていた頃、たまたま事務所引き継ぎのお話を頂きました。ちょうどここで事務所をされていた弁護士の方が高齢で引退を考えられており、後任を探している、と…。設備一式は整っていて、進行中の案件を引き継いだ上で新たに仕事を取ってきても良い、という条件はまさに私にとってうってつけ、正直できすぎだと思っています。

大路 どんな仕事でも、独立に際しての初期経費や仕事の確保は頭を悩ませるも

の。その点において、大野所長は良い出会いに恵まれたのです。また、こちらは医療関係、特に医療関係者サイドに特化した事務所と伺いました。なぜそのようなスタンスを選んだのでしょうか。

大野 まず、弁護士として専門性を確立することが大事だと考えました。「何でもできる」と間口を広く取るより、専門性を高めたほうが安定した仕事が確保できますからね。そして私はかつて病院関係の案件を手がけていて医療関係者との接点もあったことから、医療分野を専門とすることに決めました。

決断をすればそこからさらに情報収集をするわけですが、そのうちに、医療事故やクレームの際に、患者さん・被害者さんサイドに立つ弁護士はいても、医療

従事者サイドに立つ弁護士はほとんど見当たらないことに気づきました。それならば自分がスペシャリストとしてポジションを確立する余地があると考え、事務所の方針を定めたのです。

個人のプライドより、依頼者の利益を

大路 明確なビジョンを持っての独立だったというわけですね。ところで、弁護士の先生という、失礼かもしれませんが近寄りやすい雰囲気があるように思います。

大野 私も弁護士である前に、皆さんと変わらぬ1人の人間です(笑)。しかし、そのように思われる方は実際に多くいらっしゃると思いますね。そのあたりを踏まえ、コミュニケーションには気を使うようにしています。依頼者様の質問にお答えする際は極力難しい法律用語などは使わないようにすることで、きちんと内容をご理解頂けるようにしています。

大路 そうして頂けると、相談する側としてはありがたいと思います。また、お仕事柄、時には相手が言いにくいことまで踏み込んで聞かなくてはいけないこともあるでしょう。そのあたりはいかがですか？

大野 それに関しては、2年ほど前から不思議なくらい相手の話をしっかりと聞き出せるようになった自分があります。何が理由かはよく分かりませんが…(笑)。ただ、依頼者様のためならば自分のプライドなど捨ててもいい、とい



う感覚は常に持っています。もちろん弁護士としてのプライド・責任感は大切にしていますが、依頼者様のため、という点においては、私個人のプライドはいつでも捨てられます。

大路 そこまでご自身の仕事について明言して頂けるのは、依頼者にとっては本当に心強いことでしょうね。では、これまでに思い出深かった案件などはありますか？

大野 弁護士として初めて刑事事件の被告人の国選弁護人を務めた時のことは、今でも忘れられません。当時は事務所勤めで所長の決済を仰ぎながらの仕事をしていましたから、一から十までを自分の判断で行うということは初めてでした。全てが手さぐり、必死である一方で依頼者の方にも申し訳なさを感じていたのです。しかし、判決後に依頼者の方とお話した時に、彼は私にこう言ってくれました。「先生に経験がないのは分かっていましたが、それでも私の目を見てしっかり

と話をしてくれた。本当に嬉しかった。ありがとうございました」。その時、私は初めて弁護士になってよかったと心の底から思いました。手紙を頂いたのですが、それは今でも宝物として大切に保管してあります。

大路 弁護士として心から相手のために働いたからこそ、想いが通じたのでしょうか。きっと今でも、その気持ちが原動力になっているのだと思います。では、今後についてはいかがでしょうか。

大野 まずは組織としての体制を強固にするために、事務所の法人化を目標としています。また、現在のクライアントは大きな医療法人が中心となっているのですが、今後は医療に特化しつつ少し仕事の幅を広げ、例えば薬局や老人介護施設、町の歯科医の方に対してアプローチしていきたいですね。時代の移り変わりによるニーズの変化に合わせ、皆様のお役に立つべく努めてまいります。



Company Data>>

リヴラ総合法律事務所

〒105-0004

東京都港区新橋 2-16-1

ニュー新橋ビル 509

TEL 03-5251-5478 / FAX 03-5251-5045

URL <http://www.ohno-law.com/>

医療 URL <http://www.iryousoudan.com/>